

例会報告

第2404回例会報告議事録

日時 27年10月20日(火曜日)

場所 川村学園女子大学 我孫子キャンパス内 会議室

時間 12:15点鐘

ロータリーソング「それでこそロータリー」

ビジター:なし

S.A.A.:高島会員

会長挨拶

瀧日会長



いい季節になりました。いい天気も続いており、まさに行楽日和です。

25日にエコマラソンがあります。星野さんが実行委員をされています。うちのクラブから米田会員と依田会員が参加し、前回完走しました。うちの息子も出ます。K's電気の前で手を振っています。

前回の例会の後に丸田幹事と上村晃一会員のお見舞いに行きまして。大変お元気でした。無事手術を終え、退院され、自宅療養中です。心臓の弁膜が悪かったようで、ペースメーカーを入れていらっしゃる。しばらく運転ができないそうです。十分療養してまた例会に来てくださいねとお話

して参りました。

「ロータリーの友」の10月号に社会奉仕について参考になることがいろいろ出ています。「ロータリー・アット・ワーク」というページにいろいろなクラブのいろいろな活動が記載されています。

静岡中央RCは小学生に対して体験お仕事館ということをされています。16種類の仕事の中から好きな仕事を体験してもらって、発表してもらおうそうです。内容はロボットの製作、プラモデルの組み立て説明書の製作、太陽光発電の学習、建築事務所、薬剤師、アナウンサー等を体験してもらおうそうです。ロータリーの宣伝という面でも、子ども達の社会経験という面でも意味のある活動だと思います。

坂田東RCは有名なあじさい園に毎年あじさいの苗を寄付しています。

宇佐RCは小学校、図書館に本を寄贈しています。

函館RCは全日本ロータリークラブの親睦合唱祭を開催しました。全国から29チームが集まり盛大にやっているそうです。

鳩ヶ谷RCは創立50周年記念行事として、杉の木の一枚板の3メートル近い日光の案内看板を川口市に寄贈しました。

杉戸RCは8年前から4月と9月に2日間ずつ朝7時半から8時まで、会員40名が分担して6つの小学校の校門そばで学校関係者やPTAと共にあいさつ運動をしています。人と人のつながりを実感しているそうです。

奈良西RCは交通安全標語入りのティッシュを配っています。

高松中央RCは有名な栗林公園に紅しだれ桜を植樹して寄贈しました。

秋田中央RCは動物園でクリーンアップ例会を9年間しています。動物園の清掃です。参加が年々増えているそうです。

草加中央RCは10年間に、タイのウゴンRCに消防車14台、救急車2台を送っています。

村上RCは白鳥が飛来する大池の浄化作業をしています。

我々も50周年記念の寄付を考えていますが、他のクラブは記念行事をしている所が多いですし、それをヒントにして考えた方がよいと思います。担当の方には是非そのようにお願いしたいと思います。

フェローシップの地区活動について親睦委員会、クラブ活動運営委員会に取り扱いを決めてほしいというメールが来ています。来週の例会にフェローシップ担当の増谷さん、11月10日にはガバナー補佐がいらっっしゃいます。

親睦委員会報告

木村委員長

先週水曜に親睦ゴルフを無事開催させていただきました。非常に天候のいい中ゴルフをすることができ幸せでした。ありがとうございました。

11月13日(金)に基調講演、フェローシップ交流会、11月28日(土)に里山歩きのご案内がフェローシップの増谷委員長より来ています。

10月2日生まれの高島会員、お誕生日おめでとうございます。



高島会員より

76になりました。9月16日から肺炎で一週間、咳と痰で呼吸困難でした。順天堂に担ぎ込まれ、10月の誕生日を迎えられないのかなと娘達や孫達に心配させながら、まだ長らえています。僕はエコマラソンを11回走っていますが、一番速かったのが1時間46分で、だんだん2時間5分等になってきました。今は咳だけが時々出ます。SAという重責がありながらなかなか出席できず、皆さんにご迷惑をおかけしました。今後もひとつお付き合いいただければと思います。

出席報告

渡邊委員長

15名出席(全員で24名) 出席率62.5%

親睦ゴルフ優勝

鈴木会員



最近、駄馬になってきており、何が原因かというバンカーショットです。かつて16回というのを2、3年前にやって、その時一生懸命練習して克服できたと思っていたら、また病気が出始め、コンペで4回バンカーにつかまり、ここ20年くらいでワーストスコアでした。自分が知らない自分の欠点があったり、行ったり来たり的人生ですが、よい人生を歩みたいと思っています。そんな中での今回の優勝は神様からの励ましであり、慰めであると感じています。大枚をいただき、全部女房に差し上げましたが、半返しということでニコニコさせていただきます。

卓話「不動産の歴史」

荒井会員



あがり症なのでうまく出来るかどうかかわからないのですが、不動産業はノウハウがすべての職業で、ノウハウを話してしまうと商売に差し支えがあるので日本の不動産の歴史について調べて参りました。

日本において不動産と呼ばれるものが生まれたのは何時頃でしょうか。不動産の生い立ち、業として認識された時期、集合住宅の起こり、金融とのつながりなど日本の古代から現在にいたる不動産の歴史をまとめてみました。

昔、土地は地方の豪族、貴族、小国の王たちの自己権力を示す勢力圏図のような形で捉えられていました。土地を財産(価値あるもの)として捉えるよりは縄張り、しま、として捉えていたようです。支配地内では、そこに住民を使い農産物を生産し、地域を統治していました。

聖徳太子の没後、有力豪族であった蘇我氏が勢力を伸ばし権力を握りました。天皇への迫害を行ない、政治を独占しましたが、中大兄皇子が中臣鎌足の協力を得て、蘇我一族を倒し天皇中心の国づくりを始めました。これが645年の大化の改新です。この改新において土地は公地であり、民は公民であることが謳われ、天皇を中心とする中央集権国家が完成しました。

土地の価値(収益及び財産)を公が認め、公の民に貸し与えることから始まり、租税の見直し、財政の確立、政治体制の強化と進んで行きました。

奈良時代初期、農民の暮らしは昔と変わらず苦しいもので、課せられた重税や労役等が重くのしかかり、その苦しさから逃れる為に田を捨てて逃亡する者も現れました。農民のいない田は荒れ、収穫に悪影響を及ぼし、支配層の不満や不安が体制の批判となり社会に混乱が生じました。

そこで国は723年に三世一身の法を定め、開墾した土地について期間を定めて私有することを認め、743年に墾田永年私財法にて開墾した土地の永続的な私有を認めました。これにより貴族、豪族、有力寺社は農民を集め土地の開墾を行い、私有地の拡大に乗り出しました。これが荘園であり、土地の私有化が本格的に開始されました。

支配層は国政を動かす立場だったため、多くが活動拠点を都に置いており、荘園の管理をする見張る人をたて、土地の開墾、耕作、収穫などの運営に就かせました。

平安時代には荘園支配者と中央政府との力関係に変化が生じ、免税農地の荘園が発展し、税を逃れる為に皇室や摂関、大寺社へ荘園を寄進するものも現れ、荘園に対する中央の統制機能が揺らぎ始めます。

鎌倉時代になると守護、地頭の力が大きくなり、次第に荘園の支配権を略奪するようになり、全国的に戦乱が相次ぎ、荘園の支配関係は流動的になっていきました。

室町時代、幕府は乱世を抑えるために体制の強化をはかり、地方武士の組織化として各地の守護権限を強化します。この守護が守護大名です。

荘園で暮らしている民衆も自立の歩みを始め、村落を形成、村落が集まり地域自治の体制を築きだします。このような守護大名の権力強化と村落の自立が荘園の弱体化を招きました。

戦国時代になると自らの武力で支配地域の確保、確立を図るものが出現しました。これが戦国大名です。1580年、戦国大名だった豊臣秀吉の太閤検地で荘園はついに消滅します。

1603年、徳川家康が江戸に幕藩体制の封建国家を打ち立てました。260年間、徳川の時世が続いたのは国の統治システムが上手く機能し、東海道、中山道など交通網の整備、江戸は統治、商売は大阪という経済システム等、社会基盤を整えたことに起因すると言われていました。社会が安定することで民衆の暮らしは豊かになり、江戸は商業の発展が目覚ましく、地方の農民も江戸に集まり、江戸の人口は増加して行きました。五人組と呼ばれる行政組織があり、互いに扶助、監視するシステムにより治安が維持されていました。

土地は武家、寺社が8割を所有し、庶民は2割程度でしたが、人口比率は武家・寺社と庶民の数は同等であったため、庶民は狭い土地に密集して暮らすことになり、長屋が出現しました。これが不動産業の誕生と言われていました。

江戸は町人の街でした。町人とは富裕層で都市に居住した商人を指します。この層は家を所有し、行政や公事にも参加、公的権利、身分を持っていました。幕府を開いて80年くらい経った頃、豪商、富豪と呼ばれる人が、土地の売買は禁止されていましたが、町人地では証文により取引が行なわれており、豊富な資金を持つ商人たちが土地を所有するようになりました。町人(商人)や町役には、長屋を持ち、大家を雇い、庶民へ賃貸するという社会的責任がありました。各戸の玄関が直接外部に接している長屋は間口9尺奥行き2間の3~5坪程度の広さでしたが、長屋の絆は強く、大家を中心として地域のコミュニティが形成されていました。

江戸時代の大家とは家主ではなく、家賃を集めたり管理を任せられたりしている人を指し、差配人と呼ばれていました。これが今の不動産管理業と言われていました。

1867年の大政奉還により新たな時代の幕が開けました。明治政府が誕生し、諸外国の脅威にさらされていたため、国家としての体制を早急に構築する必要から次々と改革が行なわれました。

(次ページへ続く)

国家経営の安定には収入の確保が必要で、明治5年には田畑永代売買禁令、翌年には地租改正が施行され、租税対象が変更されました。収穫高から地価、物納から金納、納税者は耕作者から土地の所有者へ変更されました。土地の所有権が法的に証明され、個人財産としての価値が認められ、土地取引が盛んに行なわれるようになり、土地を担保とした貸借の法行為も認められました。

政府は近代国家として統治機能に関する知識を西欧から多く積極的に取り入れました。

明治時代には国民の生活様式も大きく変わり、移動の自由と職業選択の自由は産業推進の原動力となりました。

大正時代には日本の軍事、経済は列国の一員として認知され、国民の中に消費文化も芽生えました。大正デモクラシーは経済、社会の安定が庶民生活に余裕と余暇を生じさせ、大衆の民主主義的な文化運動として起こりました。

1910年(大正2年)、日本初の木造積層共同住宅が上野公園に隣接して建てられました。5階建てで洋風は外観、浴室は共同で、日本人だけでなく外国人も入居しました。

1916年、日本初のRC(鉄筋コンクリート)造集合住宅が長崎港沖合18kmの小さな石炭の島に建設されました。軍艦島です。

大正12年の関東大地震で40万戸以上の住宅が焼失し、内務省は外郭団体として同潤会を設立、地震に強い共同建物の建設を推進し、16箇所2800戸のアパート、代官山アパート等を建てました。

1925年には日本初の洋風集合住宅、御茶ノ水文化アパートが建てられました。

1921年(大正10年)に「借地人の保護」「居住権の確保」に重点を置いた借地法が施行され、平成4年に新しい借地借家法が施行されるまで約71年間続きました。

戦前の農村は一部の地主と、地主に土地を借りて耕作する小作人で成り立っており、小作人の生活は苦しく、地主制度を解体しようとする政策は地主層の反対で成立しませんでした。1945年(昭和20年)、GHQの最高司令官マッカーサーは封建的圧政の下、農民を奴隷化してきた仕組みを打破することを指示、1947年に農地改革が成立しました。以後、小作地の8割が政府によって強制的に安値で買い上げられ、小作人に安値で売り渡されました。これにより、戦後日本の農村は自作農がほとんどとなり、平安時代に始まった封建制度が終了しました。土地保有についての国民意識も変わり、1970年以降の減反政策や市街化調整区域内の農地の固定資産税の宅地並み課税により、多くの農地が分譲住宅、賃貸住宅向けに供給されて行きました。

戦後、朝鮮戦争特需を皮切りに日本の経済成長が始まりました。豊かになった工場労働者、サラリーマンは持ち家を購入し、GDP(国内総生産)を押し上げて行き、バブル崩壊の1989年(平成元年)まで不動産価格は上がり続けました。

土地は単なる縄張りとしての目印から、国の統治機能を補完する手段として使われるようになり、近代国家の法律のもとに土地に権利が与えられ、金融商品の対象となり、次第に社会経済の中に浸透していき、現在では誰でも取り扱うことのできる存在となりました。

昔からの不動産の流れをまとめてみました。ありがとうございました

ニコニコBOX		
お名前	メッセージ	金額
荒井会員	準優勝させて頂きました。ありがとうございました。	2,000円
井上会員	茶室が完成しましたので。	1,000円
木村会員	親睦ゴルフで当日賞いただきました。有難うございます。	2,000円
佐藤会員	前回休ませていただきました。	1,000円
鈴木会員	RCゴルフコンペ、優勝しました。	5,000円
高島会員	誕生祝いただきました。	1,000円
当日計		11,000円
今期累計		88,000円

閉会の挨拶 瀧日会長

土地の私有というのがいつ始まったのか興味がある話です。また続きをひとつお願いしたいと思います。

今週の表紙「十二座神楽」柏市塚崎1460番地(神明社)

例年、神明社の秋の例大祭に、その年の豊作に感謝して神楽殿で奉納上演される神楽舞です。古代神話を元にした十二の演目(巫女・猿田彦・湯篁・狐・恵比寿・鍾馗・玉取り・天宇受売命・大幣・大蛇退治・天岩戸・餅投げ)から構成されています。代々、塚崎地区の長男によって継承されています。古い伝統があり、少なくとも江戸時代初期には奉納されていました。柏市の無形民俗文化財です。

ロータリーの友事務局 ホームページ www.rotary-no-tomo.jp メールは web@rotary-no-tomo.jp

環境NPOオフィス町内会が中心となって2005年に立ち上げた新たな間伐促進活動が「森の町内会」です。この活動に賛同して「印刷用紙」や「コピー用紙」を使用する企業は2009年9月現在、92社にのぼり、その環境貢献として促進される岩手県岩泉町・葛巻町・青森県三沢市での間伐は、年間30haの規模になっています。グリーン購入大賞で大賞を、山村カコンクールで林野庁長官賞を受賞しています。



この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。

我孫子ロータリークラブは、環境貢献として、「森の町内会」を応援します。